

3 事業概要

県民生活に必要な良好な環境を継承していく科学技術拠点として、「環境監視等の実施」「調査研究の推進」「環境学習の推進」等の事業に取り組んでいる。

3.1 環境情報部環境活動推進課

3.1.1 企画調整業務

令和6年度は、調査研究の企画調整、研究成果の公表及び環境全般についての普及啓発に関する業務を行った。

(1) 調査研究業務の企画調整

令和5年度に終了した調査研究課題について、研究結果説明会を開催した。

また、令和6年度の調査研究課題について、調査研究計画説明会において内部評価を、また調査研究推進委員会による外部評価を行った。

事業名又は項目	概要
ア 結果報告	令和5年度調査研究結果報告会を令和6年5月24日(金)に開催した。
イ 中間報告	令和6年度調査研究中間報告会を令和6年10月4日(金)に開催した。
ウ 課題の調整	令和7年度の調査研究課題の設定を行った。
エ 内部評価	令和7年度調査研究計画説明会を令和7年1月22日(水)に開催し、内部評価を行った。
オ 外部評価	<p>令和7年度調査研究課題について、学識経験者4人で構成する調査研究推進委員会(委員長 桜美林大リベラルアーツ学群片谷教孝教授)を令和7年2月21日(金)に開催し、計画外部評価を行った。</p> <p><評価対象></p> <p>① 河川を浮遊・流下するプラスチックごみのAI(深層学習)による判別・計測手法の確立ならびに海岸漂着マイクロプラスチック等の経年変化(プロジェクト研究)</p> <p>② 環境DNAを用いた生物多様性保全に関する研究(プロジェクト研究)</p> <p>③ 炭素および酸素に着目したPM2.5粒子の詳細元素分析(地域課題研究)</p> <p>④ 神奈川県内河川におけるベンゾトリアゾール系紫外線吸収剤(BUVs)の分析法検討及び環境実態把握(地域課題研究)</p> <p>⑤ 環境DNA技術を活用した流域関係者参画による河川生態系観測・保全体制構築に関する基礎研究(地域課題研究)</p>

(2) 研究成果の公表

調査研究成果を広く紹介するため、業績発表会及び環境研究合同発表会を開催するとともに、研究報告の発行、学会等への発表を行った。

※ゴシック表記の氏名は、当センター職員であることを示す。

事業名又は項目	概要
ア 環境研究合同発表会	<p>当センターと横浜市環境科学研究所及び川崎市環境総合研究所で構成する「神奈川県市環境研究機関協議会」の主催により、令和6年6月12日(水)に会場(川崎市役所)及びZOOMウェビナーによるハイブリッド形式にて「第48回環境研究合同発表会」を開催した。</p> <p><当センターの演題></p> <p>①低周波音に対する心理的反応(横島潤紀【調査研究部】)</p> <p>②海岸に漂着するマイクロプラスチック～材木座海岸の大量漂着樹脂ペレットの発生源を探る～(辻祥代【調査研究部】)</p>

事業名又は項目	概要
イ 業績発表会	<p>令和6年10月25日(金)に「神奈川県環境科学センター業績発表会」をプレジール平塚(対面式)+ZOOMウェビナー(オンライン式)を用いたハイブリッド方式により開催した。参加者70人</p> <p><演題></p> <p>①ごみ集積場脇におけるプラスチック片(調査研究部 三島聡子)</p> <p>②神奈川県におけるPM2.5中のタンパク質の実態把握(調査研究部 石割隼人)</p> <p>③環境DNA技術を活用したスナヤツメ類調査手法の開発(調査研究部 長谷部勇太)</p> <p>④航空機の飛行経路把握法の確立(環境情報部 西野健太郎)</p>
ウ 研究報告の発行	<p>「令和6年版(2024)神奈川県環境科学センター研究報告 第47号」を令和6年1月に当センターウェブサイトに掲載した。</p> <p><内容></p> <p>①報告:市民参加型環境DNA調査の成果と課題、そして今後の展望 長谷部 勇太(調査研究部)</p> <p>②報告:魚眼カメラを用いた航空機飛行経路の把握と航空機騒音の予測 西野 健太郎、横島 潤紀(調査研究部)、森 淳一(神奈川大)、森長 誠(大同大)、山元 一平(防衛基盤整備協会)</p> <p>③短報:箱根大涌谷の火山活動と箱根町宮城野大気環境測定局の二酸化硫黄濃度との関係 代田 寧(調査研究部)、原田 昌武(環境情報部)、安部祐希(温泉地学研究所)</p> <p>④短報:PFOSおよびPFOA代替品の新規モニタリング手法の開発と簡易モニタリング 中山 駿一、黒澤 のりあ、長谷川 敦子(調査研究部)</p> <p>⑤短報:環境DNA技術を用いた希少種スナヤツメ類の調査手法の開発 濱邊 一弥(水源環境保全課)、長谷部 勇太(調査研究部)</p> <p>⑥短報:神奈川県におけるニホンナシの開花不良に関する気候変動影響予測 田澤 慧(脱炭素戦略本部室)、新井 聡史、米山 翔太(環境情報部)</p> <p>⑦資料:引地川の河岸や中州に堆積するプラスチック片の状況(2022年11月) 代田 寧、内藤 智子、五十嵐 恵美子、菊池 麻希子、川原 一成、星崎 貞洋、中山 駿一(調査研究部)、宮澤 誠(環境課)</p>
エ 学会等への発表	<p>調査研究成果について、論文等の発表(表3.1.1-1、表3.1.1-2)を行った。</p>
オ その他	<p>調査研究その他の業績により、職員が令和6年度中に受けた表彰</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年7月2日(火)「第31回環境化学論文賞」(三島聡子、中山駿一【調査研究部】、二瓶泰雄【東京理科大】) ・令和6年10月31日(木)「第68回生活と環境全国大会大会長感謝状」(三島聡子【調査研究部】) ・令和6年11月13日(水)「神奈川県環境農政局長表彰」(環境DNA技術を活用した希少種調査手法の開発チーム【調査研究部】) ・令和6年12月11日(水)「神奈川県知事表彰」(環境DNA技術を活用した希少種調査手法の開発チーム【調査研究部】) ・令和7年3月24日(月)「神奈川県環境農政局長表彰」(県民参加型水生生物調査プロジェクトチーム【調査研究部】、(「神奈川県気候変動適応センター」熱中症予防普及啓発チーム)

表 3.1.1-1 論文等発表 (*: 査読付き論文)

著者【所属】	題目	学会誌等名称
横島潤紀 【調査研究部】	コーヒーブレイク・Q&A コーナー	日本音響学会誌、

著 者【所属】	題 目	学会誌等名称
	(道路交通騒音や振動に関する法令等について)	Vol. 80, No. 4, 237 (2024) 4月
長嶋桃子【環境情報部】	環境科学センターの環境学習支援事業について	資源循環かながわ さーきゅれーしょん、 29号、18-19 (環境科学センターだより) (2024) 4月
原田昌武【環境情報部】 、吉田明夫【静岡大】*	箱根火山活動における膨張源の深さ —火山活動監視の視点から—	地学雑誌、Vol. 133 No. 2, 91-100 (2024) 4月
伊藤谷生、狩野謙一【静岡大】、佐藤剛【東京都市大】、藤原明【ジオシス】、渡辺俊樹【名古屋大】、東中基倫、阿部進【地球科学総合研究所】、阿部信太郎【地震予知総合研究振興会】、津村紀子【千葉大】、山本玄珠【東海大】、佐藤比呂志、岩崎貴哉【東京大】、武田哲也【防災科学技術研究所】、石山達也【東京大】、小田原啓【温泉地学研究所】、 原田昌武【環境情報部】 、小森次郎【帝京平成大】*	伊豆衝突帯北西部、富士川河口断層帯東縁、大宮断層・入山瀬断層の3次元地下構造とその形成過程 —星山丘陵多側線統合的地震探査の成果—	地学雑誌、Vol. 133 No. 2, 101-128 (2024) 4月
三島聡子【調査研究部】 、技術情報協会(編集)	PFASの規制動向と対応技術 (第2章・第14節 マイクロプラスチックに吸着した有機フッ素化合物の分析)	技術情報協会、174-184 (2024) 6月
Takashi Morihara【石川高専】、Yasuhiro Murakami【崇城大】、Koji Shimoyama【空港支援機構】、Makoto Morinaga【大同大】、 Shigenori Yokoshima【調査研究部】 、Sohei Tsujimura【茨城大】、Yasuhiro Hiraguri【近畿大】、Takashi Yano【熊本大】*	Sleep Disturbance Caused by Step Changes in Railway Noise Exposure and Earthquakes	Int. J. Environ. Res. Public Health, 21(6), 783, DOI: 10.3390/ijerph21060783 (2024) 6月
Masaki Takenaka【信州大】、 Yuta Hasebe【調査研究部】 、Koki Yano【基礎生物学研究所】、Seiya Okamoto【土木研究所】、Koji Tojo【信州大】、Masashi Seki、Shun Sekiguchi、Takeshi Jitsumasa【(株)プラントビオ】、Nobuyuki Morohashi、Yoshihiro Handa、Tomoka Sakaba【(株)生物技研】*	Environmental DNA metabarcoding on aquatic insects: Comparing the primer sets of MtInsects-16S based on the mtDNA 16S and general marker based on the mtDNA COI region	Enviromental DNA, Vol. 6 No. 4, DOI: 10.1002/edn3.588 (2024) 7月
中山駿一【調査研究部】	泡消火剤(AFFF)について	資源循環かながわ さーきゅれーしょん、 30号、16-17 (環境科学センターだより) (2024) 7月

著 者【所属】	題 目	学会誌等名称
環境情報部	気候変動への適応とは？ —神奈川 県気候変動適応センターの取組—	会報しんかんきょう、 148号、12-13 (2024) 8月
Nguyen Thanh Tung、Yasunao Matsumoto【埼玉大】、 Shigenori Yokoshima 【調査研究部】、Takashi Moriyama【石川高専】、Kentarō Hayashi 【ベネック振動音響研究所】*	Differences in subjective responses to traffic-induced vibration and noise in buildings between Vietnamese and Japanese participants	Acoustical Science and Technology、 DOI : 10.1250/ast.e24.38 (2024) 9月 (Advance online publication)
Kana Kurusu、Naoyuki Hioki、Mizuho Shima、Sunao Kawakami【日本大】、 Yuta Hasebe 【調査研究部】、Noriyuki Takai、 Jun Matsumoto、Aya Masuda【日本大】 *	Genetic variability of <i>Myxobolus nagaraensis</i> (Bivalvulida: <i>Myxobolidae</i>) infecting freshwater gobies <i>Rhinogobius Gill 1859</i> (Gobiiformes: <i>Oxudercidae</i>) from rivers in Japan	International Journal for Parasitology: Parasites and Wildlife、Vol.25、 DOI: 10.1016/j.ijppaw.202 4.100985 (2024) 9月
横島潤紀 【調査研究部】、古味由惟【元・ 神奈川大院】、森長誠【大同大】、辻村壮 平【茨城大】、須田直樹【小野測器】、梅 崎良樹【社会システム】、山崎徹【神奈 川大】*	道路交通騒音に対する住民反応の 住宅種別比較	自動車技術会論文集、 Vol. 55、No. 5、960- 966 (2024) 9月
西野健太郎 【環境情報部】	騒音の測定方法について	資源循環かながわ さーきゅれーしょん、 31号、6-7 (環境科学 センターだより) (2024)10月
Kentarō Hayashi【ベネック振動音響研 究所】、Yasunao Matsumoto【埼玉大】、 Shigenori Yokoshima 【調査研究部】、 Toyohiko Higashida【積水ハウス】*	An investigation of the effect of vibration duration on the evaluation of subjective responses to horizontal vibration	JAPAN ARCHITECTURAL REVIEW、Volume 8、 Issue 1、DOI : 10.1002/2475- 8876.70012 (2024)12月
長谷部勇太 【調査研究部】	県民・高校参加による河川環境 DNA 調査の取組	資源循環かながわ さーきゅれーしょん、 32号、12-13 (環境科 学センターだより) (2025) 1月
Makoto Morinaga【大同大】、 Shigenori Yokoshima 【調査研究部】、Tomohiro Kobayashi、Sakae Yokoyama、Koichi Makino、Tetsuya Doi【小林理研】、Toru Yamazaki【神奈川大】*	Experiments on the peculiar region and threshold of oppressive or vibratory sensation caused by low-frequency pure tones	Acoustical Science and Technology、Vol. 46 Issue 2 136-145 (2025) 3月

表 3.1.1-2 口頭発表 (* : ポスター発表)

発表者・連名者【所属】	発表テーマ	学会名・発表年月
森原崇【石川高専】、平栗靖浩【近畿大】、松本泰尚【埼玉大】、森長誠【大同大】、辻村壮平【茨城大】、 横島潤紀 【調査研究部】	金沢一福井間の北陸新幹線沿線における生活環境に関する開通前調査	日本騒音制御工学会春季研究発表会 令和6年4月
横島潤紀 【調査研究部】、古味由惟【元・神奈川大院】、森長誠【大同大】、辻村壮平【茨城大】、須田直樹【小野測器】、梅崎良樹【社会システム】、山崎徹【神奈川大】	道路交通騒音に対する住民反応の住宅種別比較	2024年春季自動車技術会大会 令和6年5月
長谷部勇太 【調査研究部】*	神奈川県&NP 拠点共催 市民環境DNA魚類調査プロジェクト in 神奈川	ネーチャーポジティブ発展社会実現拠点キックオフシンポジウム 令和6年6月
濱邊一弥【水源環境保全課】、 長谷部勇太 、 高坂和彦 【調査研究部】、勝呂尚之、井塚隆【水産技術センター】、伊藤寿茂、竹本淳史【相模川ふれあい科学館】、波多野順【世界淡水魚園水族館】*	スナヤツメ類の種特異的環境DNA調査手法開発と県内分布調査	第2回かながわ淡水魚復元研究会シンポジウム 令和6年6月
横島潤紀 【調査研究部】、森原崇【石川高専】、林健太郎【ベネック振動音響研究所】、松本泰尚【埼玉大】	鉄道騒音・振動の複合暴露によるアノイアンスへの影響	日本音響学会騒音・振動研究会 令和6年7月
Shigenori Yokoshima 【調査研究部】、Makoto MORINAGA【大同大】、Sohei TSUJIMURA【茨城大】、Naoki SUDA【小野測器】、Yoshiki UMEZAKI【社会システム】、Toru YAMAZAKI【神奈川大】	Comparison of community response to road traffic noise by housing category	Internoise 2024 令和6年8月
Makoto MORINAGA【大同大】、 Shigenori Yokoshima 【調査研究部】、Sohei TSUJIMURA【茨城大】、Naoki SUDA【小野測器】、Yoshiki UMEZAKI【社会システム】、Toru YAMAZAKI【神奈川大】	A case study on the exposure-response relationship of sleep disturbance due to road traffic noise - As a case in Japan in the 2020s	Internoise 2024 令和6年8月
藤澤玲空【石川高専専攻科】、森原崇【石川高専】、松本泰尚【埼玉大】、 横島潤紀 【調査研究部】、林健太郎【ベネック振動音響研究所】	在来鉄道からの騒音と2軸振動による計算作業への影響に関する研究	日本建築学会北陸支部大会 令和6年8月
三谷和輝、松本泰尚【埼玉大】、森原崇【石川高専】、 横島潤紀 【調査研究部】、林健太郎【ベネック振動音響研究所】	道路交通・鉄道による振動と騒音に対する心理的反応の等価関係に関する検討	日本建築学会大会（環境工学I） 令和6年8月
横島潤紀 【調査研究部】、森長誠【大同大】、山崎徹【神奈川大】	道路交通騒音の暴露と睡眠妨害評価との関係の経年変化	日本音響学会秋季研究発表会 令和6年9月
籾内和真【神奈川大院】、 横島潤紀 【調査研究部】、森長誠【大同大】、牧野康一、土肥哲也、横山栄、小林知尋【小林理研】、山崎 徹【神奈川大】	自動車交通騒音に対する主観評価における低周波数成分の影響	日本音響学会秋季研究発表会 令和6年9月

発表者・連名者【所属】	発表テーマ	学会名・発表年月
石割隼人、菊池麻希子、武田麻由子【調査研究部】	走査型電子顕微鏡を用いたPM2.5の季節変動観察	第65回大気環境学会年会 令和6年9月
武田麻由子【調査研究部】、小松宏昭【県央地域県政総合センター環境保全課】、石割隼人【調査研究部】	神奈川県内で発生した異臭事案について-気象解析による状況の再現と発生原因の考察-	第65回大気環境学会年会 (臭気環境分科会) 令和6年9月
野村あづみ【川崎市環境総合研究所】、小宇佐友香、福崎有希子、國府田洋行、高橋寿子、江幡育郎、蓑島浩二【横浜市環境科学研究所】、武田麻由子、石割隼人【調査研究部】、沼田和也、重水洋平、鈴木義浩、小林勉、菊地美加【川崎市環境総合研究所】(神奈川県公害防止推進協議会PM2.5等対策検討部会)*	川崎市臨海部を中心とした光化学オキシダント高濃度日における大気中VOC濃度推移	第65回大気環境学会年会 令和6年9月
森原崇【石川高専】、藤澤玲空【石川高専専攻科】、松本泰尚【埼玉大】、横島潤紀【調査研究部】、林健太郎【ベネック振動音響研究所】	鉛直と水平2方向振動と騒音の組み合わせによる計算作業への妨害感に関する研究	日本音響学会騒音・振動研究会 令和6年10月
西野健太郎【環境情報部】	魚眼カメラを用いた航空機飛行経路の把握と航空機騒音の予測	全国環境研協議会関東甲信静支部騒音振動専門部会 令和6年10月
菊池麻希子【調査研究部】	神奈川県におけるPM2.5の経年変化	全国環境研協議会関東甲信静支部大気専門部会 令和6年11月
石割隼人、菊池麻希子、武田麻由子【調査研究部】	走査型電子顕微鏡を用いたPM2.5の実態把握	第51回環境保全・公害防止研究発表会 令和6年11月
横島潤紀【調査研究部】、八川圭司【中央復建コンサルタンツ】、森原崇【石川高専】、矢野隆【熊本大】	新幹線鉄道騒音に対するアノイアンスの経年変化	日本騒音制御工学会秋季研究発表会 令和6年11月
籾内和真【神奈川大院】、横島潤紀【調査研究部】、森長誠【大同大】、牧野康一、土肥哲也、横山栄、小林知尋【小林理研】、山崎 徹【神奈川大】	低周波数成分を含む騒音に対する不快感の因果分析	日本騒音制御工学会秋季研究発表会 令和6年11月
森原崇【石川高専】、藤澤玲空【石川高専専攻科】、松本泰尚【埼玉大】、横島潤紀【調査研究部】、林健太郎【ベネック振動音響研究所】	在来鉄道騒音と振動の組み合わせが計算作業の妨害感へ及ぼす影響	日本騒音制御工学会秋季研究発表会 令和6年11月
Nguyen Thi Cuc、Nguyen Thanh Tung、松本泰尚【埼玉大】、横島潤紀【調査研究部】、森原崇【石川高専】、林健太郎【ベネック振動音響研究所】	An experimental investigation on the effect of duration of living in Japan on Vietnamese subjective responses to vibration and noise	日本騒音制御工学会秋季研究発表会 令和6年11月
籾内和真【神奈川大院】、横島潤紀【調査研究部】、森長誠【大同大】、牧野康一、土肥哲也、横山栄、小林知尋【小林理研】、山崎徹【神奈川大】	低周波数成分を含む自動車交通騒音に対する不快感の因果分析	日本音響学会騒音・振動研究会 令和6年12月

発表者・連名者【所属】	発表テーマ	学会名・発表年月
長谷部勇太【調査研究部】、稲熊なつみ、運天弘樹【NEC ソリューションイノベータ】*	止水域における昆虫類環境 DNA 調査手法開発にかかる基礎的検討	第7回環境 DNA 学会つくば大会 令和6年12月
長谷部勇太【調査研究部】*	令和5年度河川のモニタリング調査結果（環境 DNA 編）	第24回さがみ自然フォーラム 令和7年2月
長谷部勇太【調査研究部】	昆虫類環境 DNA 調査の季節変化に関する基礎的検討-国Ⅱ型研究成果報告-	第40回全国環境研究所交流シンポジウム 令和7年2月
米山 翔太【環境情報部】	市町村と連携した「暑さ指数」の認知度向上に向けた取組について	第40回全国環境研究所交流シンポジウム 令和7年2月
横島潤紀【調査研究部】	地方公共団体における騒音・振動・低周波音に係る苦情対応について	日本音響学会騒音・振動研究会 令和7年3月
横島潤紀【調査研究部】	道路騒音・振動の複合暴露による住民反応への影響（招待講演）	日本音響学会春季研究発表会 令和7年3月
馬屋原博光【リオン】、横島潤紀【調査研究部】、平尾善裕【小林理研】	「振動測定マニュアル」の変遷と Ver. 2 の概要（招待講演）	日本音響学会春季研究発表会 令和7年3月
林健太郎【ベネック振動音響研究所】、松本泰尚【埼玉大】、横島潤紀【調査研究部】、東田豊彦【積水ハウス】	振動の継続時間を考慮した建物水平振動の評価（招待講演）	日本音響学会春季研究発表会 令和7年3月
森原崇【石川高専】、松本泰尚【埼玉大】、横島潤紀【調査研究部】、林健太郎【ベネック振動音響研究所】	鉄道騒音・振動刺激による心理反応の実験的検証 -複合刺激に対する評価方法の一検討-（招待講演）	日本音響学会春季研究発表会 令和7年3月

(3) 人材育成

県・市町村環境担当職員研修等を行った。

事業名又は項目	概要
ア 大気水質等担当職員研修	<p>県及び県内市町村の職員を対象に、研修を行った。</p> <p>① 法令研修 主要な環境保全関係法令の基礎知識、許認可の事務手続き等に関する計17講座の研修を令和6年5月27日から5月30日までの間、環境科学センターにおいて実施した。受講者延べ136人</p> <p>② 技術研修 ・水質事故の概要等3講座を令和6年10月11日に、実地研修を同年10月23日に対面で実施した。受講者延べ27人 ・アスベスト対策の概要等7講座を令和6年11月11日に環境科学センターにおいて実施した。受講者41人 ・騒音・振動及び低周波音の測定について講座・実習を令和6年12月4日及び12月19日に実施した。受講者延べ43人 ・悪臭防止法・臭気の測定法・悪臭防止対策等について、令和7年1月28日に環境科学センターにおいて実施した。受講者20人</p>

事業名又は項目	概要
イ 廃棄物対策担当職員研修	<p>県及び県内各市町村職員のうち新たに廃棄物行政を担当する者及び担当職員で参加を希望する者を対象に研修を行った。</p> <p>① 法令研修 廃棄物関係法令の基礎知識、許認可の事務手続き、行政検査の方法等に関する計14講座を、令和6年6月13日、6月18日、6月20日(午後のみ)の3日間、環境科学センターにおいて、集合形式で実施した。受講者延べ43人</p> <p>② 技術研修 令和6年11月6日にかがわ環境整備センター(横須賀市芦名)において「石綿含有の受け入れ時のチェック方法等について」の講義と実地見学を実施した。受講者19人</p>
ウ 県・市町村環境学習研修	<p>県及び市町村の環境学習担当職員を対象に、環境教育や環境学習の実践等に関する講座を令和6年6月19日に集合形式で行った。受講者12人</p>
エ 市町村環境業務担当職員研修	<p>市町村の環境業務担当職員を対象に、水質調査委託業務管理に役立てるため「分析値精度管理の基礎」に関する研修を令和6年7月10日に集合形式で行った。受講者7人</p>

(4) 依頼に基づく職員の派遣

市町村、団体等から要請のあった講習会や出前講座等の講師及び審議会等の委員として、職員を派遣した。

事業	概要
ア 講師派遣	<p>大学・公共機関等の研修会、講習会への講師派遣を行った。 27件 (表3.1.1-3)</p>
イ 出前講座	<p>公共機関・学校・市民団体等を対象に講師を派遣し、水の汚れの測りかた、気候変動の影響とその適応等に係る講座を実施した。 5件 (表3.1.1-4)</p>
ウ 審議会、委員会等への委員受嘱	<p>市町村の審議会、国の委員会、県の各種協議会等の委員を受嘱した。 <派遣先></p> <p>① 市町村の審議会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平塚市環境審議会 ・茅ヶ崎市環境審議会 ・厚木市環境審議会 ・小田原市環境審議会 ・寒川町環境審議会 ・二宮町環境審議会 ・鎌倉市生活環境整備審議会 ・座間市環境審議会 <p>② 国の設置した委員会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公害苦情相談アドバイザー (総務省公害等調整委員会) ・車外騒音部門委員会 ((公社)自動車技術会【環境省委託】) ・集団規定に係る基準検討委員会(国土交通省) ・アスベスト分析法委員会委員、APT委員会委員及びAPT実行委員会委員 ((一社)日本環境測定分析協会【環境省委託】) ・新幹線鉄道騒音の測定・評価及び対策に関する検討委員会 (株)ニューズ環境設計【環境省委託】)

事業	概要
	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の環境騒音に係るあり方に関する検討会 (中央復建コンサルタンツ(株)【環境省委託】) 嗅覚検査委員会及び臭気測定認定事業所審査委員会(におい・かおり環境協会【環境省委託】) 有害大気汚染物質等の常時監視に関する検討会 (みずほリサーチ&テクノロジーズ(株)【環境省委託】) ③ 県の協議会等 <ul style="list-style-type: none"> 神奈川県青少年科学体験活動推進協議会(青少年センター) 丹沢大山自然再生委員会オブザーバー(自然環境保全センター) 相模灘沿岸気候変動を踏まえた設計外力技術検討会(県土整備局河港課)

表 3.1.1-3 講師派遣

所属	講師	演題等	派遣先(主催機関)	実施日
環境科学センター	加藤陽一	第220期 消防職員初任教育「理化学」	消防学校	令和6年4月23日(火)、5月7日(火)、14日(火)、21日(火)、28日(火)
調査研究部	代田寧、辻祥代、露木一樹、五十嵐恵美子	海岸でのマイクロプラスチックの採取実技	慶応義塾大 環境情報学部	令和6年4月25日(木)
調査研究部	長谷部勇太	地域住民と連携した環境DNA技術の活用事例について	茅ヶ崎市立浜須賀小学校	令和6年6月18日(火)
環境情報部	新井聡史	神奈川県における熱中症の発生状況について	環境農政局農水産部 農業振興課ほか	令和6年6月13日(木)
調査研究部 環境情報部	代田寧、辻祥代、内藤智子、堀越史一、原田昌武、森真人	南足柄市環境フェア	南足柄市長	令和6年6月19日(水)~21日(金)
調査研究部	長谷部勇太	環境科学センターの取組 マイクロプラスチックの問題 生物多様性と環境DNA	県立藤沢西高等学校	令和6年7月10日(水)
環境情報部	新井聡史	令和6年度 ESD 学び合いプロジェクト	(一般)環境パートナーシップ会議	令和6年7月10日(木)
調査研究部	横島潤紀	騒音・振動苦情に係る測定と対策事例	環境省環境調査研修所	令和6年7月11日(木)
調査研究部	長谷部勇太	金目川における生き物の調査	金目川水系流域ネットワーク	令和6年7月28日(日)
調査研究部	代田寧	相模湾に漂着するマイクロプラスチック	神奈川県消費生活課長	令和6年8月1日(木)
調査研究部 環境情報部	三島聡子、代田寧、堀越史一	夏休み子ども環境教室「海洋プラスチック問題・マイクロプラスチックについて」	神奈川県西部広域行政協議会環境部会	令和6年8月21日(水)

所属	講師	演題等	派遣先（主催機関）	実施日
調査研究部	長谷部勇太	環境学習セミナー	相模原市立環境情報センター	令和6年8月31日(土)
調査研究部	武田麻由子	神奈川県内で発生した異臭事案について- 気象解析による状況の再現と発生原因の考察 -	大気環境学会	令和5年9月11日(水)
調査研究部	長谷部勇太	水生昆虫の種類判別や生態について	湘南生活クラブコモンズ足柄環境委員会	令和6年9月29日(日)
調査研究部	横島潤紀	騒音・低周波音の基礎と測定実習講習会	(公社)日本騒音制御工学会	令和6年10月3日(木)
環境情報部	池貝隆宏	公衆衛生学	東海大医学部	令和6年10月11日(金)
調査研究部	長谷部勇太	環境担当者研修会における事例報告	(一財)環境イノベーション情報機構	令和6年10月29日(火)、11月11日(月)
調査研究部	横島潤紀	環境科学センターの取り組む技術課題について	横浜国大	令和6年10月30日(水)
環境情報部	池貝隆宏	公衆衛生学	東海大大学院人間環境学研究科	令和6年10月30日(水)
調査研究部	横島潤紀	低周波音測定評価方法講習会	(公社)日本騒音制御工学会	令和6年11月26日(火)、12月6日(金)
環境情報部	新井聡史、米山翔太	環境ガバナンス論 神奈川県内の気候変動適応策事例について	東京都市大	令和6年12月13日(金)
調査研究部	横島潤紀	道路交通振動測定マニュアル説明会	(株)エイト日本技術開発	令和6年12月23日(月)、令和7年1月9日、10日
環境情報部	新井聡史	中学校における気候変動学習教材の活用方法等について	横浜市教育委員会	令和6年12月26日(木)
調査研究部	長谷部勇太	環境DNA研究の最前線と企業の取り組み	山口大大院創成科学研究科	令和7年1月14日(火)
調査研究部	長谷部勇太	環境学習セミナー	相模原市立環境情報センター	令和7年1月25日(土)
調査研究部	辻祥代	神奈川県環境科学センターにおける環境分析関連業務の紹介	神奈川県環境計量協議会	令和7年1月30日(火)
環境情報部	西野健太郎	騒音の基礎・測定・対策について	寒川町	令和7年2月27日(木)

表 3.1.1-4 出前講座

所属	講師	演題等	派遣先（主催機関）	実施日
調査研究部	三島聡子、 辻祥代	水の汚れの測りかた	神奈川県立平塚江南 高校	令和6年7月 26日(金)
環境情報部	新井聡史	気候変動の影響とその適応	富士電線株	令和6年6月 28日(金)
環境情報部	新井聡史	気候変動の影響とその適応	座間市立市民交流プラ ザ	令和6年9月15 日(日)
環境情報部	新井聡史、 米山翔太	気候変動の影響とその適応	横浜市立共進中学校	令和6年10月 22日(火)、23 日(水)
環境情報部	新井聡史	気候変動の影響とその適応	大和市環境施設農政部 環境総務課	令和6年11月 14日(木)

(5) 広報及び普及啓発

当センターの事業に関する広報等を行った。

事業名又は項目	概 要
ア 記者発表等	募集案内等3件（2件は参考資料送付） <発表事項> 河川モニタリング調査の県民調査員を募集（令和6年4月10日(水)） 熱中症リスクが見える化「暑さ指数」表示板を設置（令和6年7月29日(月)） 令和6年度環境学習リーダー養成講座開催の案内（令和6年8月20日(火)）
イ 施設公開等	①環境科学センター施設公開 令和6年7月24日(水) 見学者 414人 ②子ども科学探検隊（県青少年科学体験活動推進協議会） 令和6年8月21日(水) 参加者 3人 ③施設見学 見学者 220人（小学校4回）
ウ イベント参加	南足柄市環境フェア(令和6年6月19日(水)、20(木)、21日(金))
エ 年報の発行	「令和6年版(2024)年報 第56号」を令和7年2月に発行し、当センターウ ェブサイトに掲載した。
オ インターンシッ プ学生の受入れ	県が実施しているインターンシップ（学生実習生受け入れ制度）により、令 和7年2月27日に大学生1人を受け入れた。

(6) 他機関との連携

県内及び全国の地方公共団体環境研究機関と交流・連携し、調査研究に関する技術の向上を図った。

事業名又は項目	概 要
ア 神奈川県市環 境研究機関協議 会	神奈川県市環境研究機関協議会（当センターと横浜市環境科学研究所及び川 崎市環境総合研究所で構成）において、情報交換や研究成果の合同発表会、研修 会を開催した。 <内容> ① 定例会 第1回 令和6年4月22日(月) 会場 川崎市役所 第2回 令和7年2月26日(水) 会場 川崎市役所 ② 第48回環境研究合同発表会（再掲） 令和6年6月12日(水) 会場 川崎市役所及びZOOMウェビナーによるハイ ブリッド形式 参加者228人

事業名又は項目	概要
	<p>③ 研修会 令和7年3月4日(火) 会場 川崎市役所及びZOOMウェビナーによるハイブリッド開催 参加者40人 講演「化学物質と環境：皮膚ガスの視点から」 学校法人 東海大 理学部化学科 教授 関根嘉香</p>
<p>イ 全国環境研協議会</p>	<p>全国環境研協議会（地方自治体の設置する環境保全及び公害防止施策に係る試験研究機関で組織）に参画し、機関相互の運営に関わる連絡、情報交換、共同調査研究等を行った。</p> <p><内容></p> <p>① 第53回総会 令和7年2月12日(水) 富山県環境科学センター（Webex Meetingsによるウェブ会議）</p> <p>② 研究・発表会等の事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立環境研究所とのⅡ型共同研究（11課題中4課題に参画） 「複数プライマーを用いた環境DNA底生動物調査手法の開発」 「災害時等における化学物質の網羅的簡易迅速測定法を活用した緊急調査プロトコルの開発」 「公共用水域における有機-無機化学物質まで拡張した生態リスク評価に向けた研究」 「連携プラットフォームを活用した環境流出プラスチックごみの発生抑制に資する研究」 「アサガオ新規品種を用いた環境ストレス影響評価およびモニタリング」 <p>③ 環境省の施策及び予算に対する要望書の提出</p> <p>④ 酸性雨全国調査への参画</p> <p>⑤ 全国環境研協議会関東甲信静支部（関東甲信静エリアの16都県市の地方公共団体環境研究所で構成）において情報交換等を行った。</p> <p><内容></p> <p>① 支部総会 令和6年9月3日(金) オンライン開催</p> <p>② 専門部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大気専門部会 令和6年11月8日(金) かながわ県民センター ・ 水質専門部会 令和6年10月7日(月) 川崎市役所本庁舎 ・ 水質専門部会東京湾連絡会 令和6年11月22日(金) 鴻巣市市民活動センター ・ 騒音振動専門部会 令和6年10月11日(金) 栃木県保健環境センター

3. 1. 2 環境学習業務

環境学習講座の開催、環境学習施設の県民利用、環境学習情報の発信等に関する業務を行った。

(1) 環境学習講座の開催

環境問題や環境保全活動に関心のある県民向けに環境学習講座を開催した。

事業名又は項目	概 要		
ア 環境学習リーダー養成講座	地域で環境学習活動を行う人材（ 環境学習リーダー ）の育成を目的として、意欲のある県民を対象に、環境問題の基礎知識や活動手法等に関する講座をオンライン開催（Zoom ウェビナーによるリアルタイム配信及び講義動画を学習管理システム（LMS）により令和7年1月13日までオンデマンド配信）した。 受講者 138 人 修了者 84 人（講座の8割以上を受講した者）		
	日程	テーマ	講師
	令和6年 10月9日(水)	神奈川県の大気・水環境の現状と課題について	環境科学センター 環境活動推進課長 池貝隆宏
		激甚化する気候変動の影響と私たちの暮らし～緩和策と適応策～	環境省 関東地方環境事務所 環境対策課 地域適応推進 専門官 川原博満
	10月20日(日)	各自の行動にかかっています～脱炭素、循環型、自然再興を～	(非営)持続可能な社会をつくる 元気ネット 理事長 鬼沢良子
		食品ロスの現状と課題・削減に向けた取組について	神奈川県資源循環推進課 河野郷史
	10月31日(木)	AI と IoT を用いた海洋プラスチックごみモニタリング	(国研)海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 主任研究員 松岡大祐
		「SDGs の教育」から求められる環境学習リーダーとは？	東海大 教養学部 人間環境学科 教授 岩本泰
	11月9日(土)	市民活動について	(一社)ソーシャルコーディネート ネットかながわ 代表理事 手塚明美
		環境学習の進め方～環境学習講座の講師として～	(非営)神奈川県環境学習リーダー会 代表理事 吉岡嗣二郎
		地球温暖化と未来の地球～私たちにできることを考えよう～	(非営)神奈川県環境学習リーダー会 理事、エネルギー部 会長 鈴木勝男
	11月22日(金)	生物多様性の保全と里山の自然	東京農業大 農学部 生物資源開発学科 教授 三井裕樹
		貴金属で水素を使用した発電によりカーボンニュートラルへ貢献	田中貴金属工業株式会社 FC開発センター センター長 松谷耕一
		国連開発計画との共同プログラム「SDGs アカデミー」について	日本クロージャー株式会社 製品開発部 部長 中川征

事業名又は項目	概要											
イ 環境活動講座	<p>地域で環境保全活動を実践するために必要な知識や技術を習得した人材を育成するため、「夏休み子ども環境体験教室」(2参照)を体験の場として、環境学習教室の準備段階から実際の進め方について学ぶ講座を開催した。</p> <p>第1回 受講者18人 第2回 受講者20人</p> <table border="1" data-bbox="464 398 1444 1037"> <thead> <tr> <th data-bbox="464 398 778 443">開催日</th> <th data-bbox="783 398 1114 443">講座のテーマ等</th> <th data-bbox="1118 398 1444 443">講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="464 443 778 750">第1回 (全4日間) 令和6年6月6日(木) ～8月2日(金)</td> <td data-bbox="783 443 1114 750">「夏休み子ども環境体験教室で講師補助体験」 夏休み子ども環境体験教室(3参照)を体験の場として、環境学習教室の準備段階から実際の進め方について学ぶ講座を開催した。</td> <td data-bbox="1118 443 1444 750">(非営)神奈川県環境学習リーダー会 浜辺謙吉、三田重雄、 吉岡嗣二郎、長村吉洋</td> </tr> <tr> <td data-bbox="464 750 778 1037">第2回 (全1日間) 令和7年2月17日(月)</td> <td data-bbox="783 750 1114 1037">「気候変動を伝えよう」 気候変動について座学からグループワークまで体系的に学び、地域における気候変動問題について普及啓発する人材育成を目指す講座を開催した。</td> <td data-bbox="1118 750 1444 1037">環境科学センター 気候変動適応センター 職員 脱炭素戦略本部室 職員</td> </tr> </tbody> </table>			開催日	講座のテーマ等	講師	第1回 (全4日間) 令和6年6月6日(木) ～8月2日(金)	「夏休み子ども環境体験教室で講師補助体験」 夏休み子ども環境体験教室(3参照)を体験の場として、環境学習教室の準備段階から実際の進め方について学ぶ講座を開催した。	(非営)神奈川県環境学習リーダー会 浜辺謙吉、三田重雄、 吉岡嗣二郎、長村吉洋	第2回 (全1日間) 令和7年2月17日(月)	「気候変動を伝えよう」 気候変動について座学からグループワークまで体系的に学び、地域における気候変動問題について普及啓発する人材育成を目指す講座を開催した。	環境科学センター 気候変動適応センター 職員 脱炭素戦略本部室 職員
開催日	講座のテーマ等	講師										
第1回 (全4日間) 令和6年6月6日(木) ～8月2日(金)	「夏休み子ども環境体験教室で講師補助体験」 夏休み子ども環境体験教室(3参照)を体験の場として、環境学習教室の準備段階から実際の進め方について学ぶ講座を開催した。	(非営)神奈川県環境学習リーダー会 浜辺謙吉、三田重雄、 吉岡嗣二郎、長村吉洋										
第2回 (全1日間) 令和7年2月17日(月)	「気候変動を伝えよう」 気候変動について座学からグループワークまで体系的に学び、地域における気候変動問題について普及啓発する人材育成を目指す講座を開催した。	環境科学センター 気候変動適応センター 職員 脱炭素戦略本部室 職員										
ウ 環境スキルアップ講座	<p>環境学習リーダーのスキルアップを目的に、オンライン開催 (Zoomウェビナーによるリアルタイム配信及び講義動画を学習管理システム(LMS)により開催日の翌月末までオンデマンド配信) した。</p> <p>第1回 受講者延べ101人 第2回 受講者延べ106人</p> <table border="1" data-bbox="464 1249 1444 1597"> <thead> <tr> <th data-bbox="464 1249 778 1294">開催日</th> <th data-bbox="783 1249 1114 1294">講座のテーマ</th> <th data-bbox="1118 1249 1444 1294">講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="464 1294 778 1485">第1回 令和6年9月26日(木)</td> <td data-bbox="783 1294 1114 1485">次世代へ繋げる!『顔の見える電力』で広げる再生可能エネルギー</td> <td data-bbox="1118 1294 1444 1485">株式会社UPDATER SX 共創本部 ビジネスSX 部部長 竹野 渉、 パーソナルSX部 山口 悠希</td> </tr> <tr> <td data-bbox="464 1485 778 1597">第2回 令和6年12月19日(木)</td> <td data-bbox="783 1485 1114 1597">プラスチック汚染と人の健康</td> <td data-bbox="1118 1485 1444 1597">東京農工大農学部 環境資源科学科 教授 高田秀重</td> </tr> </tbody> </table>			開催日	講座のテーマ	講師	第1回 令和6年9月26日(木)	次世代へ繋げる!『顔の見える電力』で広げる再生可能エネルギー	株式会社UPDATER SX 共創本部 ビジネスSX 部部長 竹野 渉、 パーソナルSX部 山口 悠希	第2回 令和6年12月19日(木)	プラスチック汚染と人の健康	東京農工大農学部 環境資源科学科 教授 高田秀重
開催日	講座のテーマ	講師										
第1回 令和6年9月26日(木)	次世代へ繋げる!『顔の見える電力』で広げる再生可能エネルギー	株式会社UPDATER SX 共創本部 ビジネスSX 部部長 竹野 渉、 パーソナルSX部 山口 悠希										
第2回 令和6年12月19日(木)	プラスチック汚染と人の健康	東京農工大農学部 環境資源科学科 教授 高田秀重										

(2) 市町村支援

県・市町村の環境学習担当者が、環境学習に関する幅広い知識を習得するとともに、実習・ワークショップ等により職員同士の交流を通じて環境学習の充実を図ることを目的として、研修を実施した。

受講者数：12人

開催日：令和6年6月19日(火)

研修内容：「県内の環境教育の取組み」について 環境課 環境計画グループ 職員
環境科学センターの取組み 環境科学センター 環境活動推進課 職員
SDGs時代の環境政策・環境学習を考える

東海大 教養学部 人間環境学科 教授 岩本泰

(3) 他機関との連携

事業名又は項目	概要																		
ア (特非) 神奈川県環境学習リーダー会	<p>かながわサイエンスサマー事業として、当センターの環境学習講座の修了者が中心となって活動している(特非)神奈川県環境学習リーダー会と共催で、小学生を対象とした「夏休み子ども環境体験教室」を開催した。講師はリーダー会会員が、環境活動講座の受講者が講師補助を行った。</p> <p><内容> 参加総数154人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>テーマ</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和6年7月29日(月)</td> <td>「映像と実験で気候変動を学ぼう」</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>7月30日(火)</td> <td>「太陽の光で回るソーラー風車を作ろう」</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>7月31日(水)</td> <td>「雲とトルネードをペットボトルの中に作ろう」</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>8月1日(木)</td> <td>「身近な植物観察・不思議発見」</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>8月2日(金)</td> <td>「空気砲とエアバッグを作ろう」</td> <td>20人</td> </tr> </tbody> </table>	日程	テーマ	参加者数	令和6年7月29日(月)	「映像と実験で気候変動を学ぼう」	10人	7月30日(火)	「太陽の光で回るソーラー風車を作ろう」	19人	7月31日(水)	「雲とトルネードをペットボトルの中に作ろう」	18人	8月1日(木)	「身近な植物観察・不思議発見」	18人	8月2日(金)	「空気砲とエアバッグを作ろう」	20人
日程	テーマ	参加者数																	
令和6年7月29日(月)	「映像と実験で気候変動を学ぼう」	10人																	
7月30日(火)	「太陽の光で回るソーラー風車を作ろう」	19人																	
7月31日(水)	「雲とトルネードをペットボトルの中に作ろう」	18人																	
8月1日(木)	「身近な植物観察・不思議発見」	18人																	
8月2日(金)	「空気砲とエアバッグを作ろう」	20人																	
イ 神奈川県青少年科学体験活動推進協議会	<p>協議会理事機関として、県内の小学生を対象とした子ども科学探検隊を当センターで開催した。</p> <p><内容> 参加者数3人</p> <p>日 程：令和6年8月21日(水)</p> <p>テーマ：「気候変動と二酸化炭素の探検～映像と実験で学ぶ～」</p> <p>講 師：(特非) 神奈川県環境学習リーダー会 理事 浜辺謙吉</p>																		

(4) 環境学習施設利用者支援

環境学習施設及び環境学習用資機材の貸出を行った。

事業名又は項目	概要									
ア 環境学習施設の貸出	<p>環境学習施設2施設を貸出するとともに、実験指導などの利用者の支援を行った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名称</th> <th>主な貸出先等</th> <th>施設利用数*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境学習室</td> <td>環境保全団体(自主講座の拠点施設として利用)</td> <td>945人(49件)</td> </tr> <tr> <td>実習室</td> <td>環境保全団体(pH、COD等の水質分析や自主講座の拠点施設として利用)</td> <td>975人(41件)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※内部利用(当センターの内部講習等)での利用は含まず。</p>	施設名称	主な貸出先等	施設利用数*	環境学習室	環境保全団体(自主講座の拠点施設として利用)	945人(49件)	実習室	環境保全団体(pH、COD等の水質分析や自主講座の拠点施設として利用)	975人(41件)
施設名称	主な貸出先等	施設利用数*								
環境学習室	環境保全団体(自主講座の拠点施設として利用)	945人(49件)								
実習室	環境保全団体(pH、COD等の水質分析や自主講座の拠点施設として利用)	975人(41件)								
イ 環境学習用資機材の貸出	<p>環境学習用のビデオ・DVD、環境測定用機器、観察機器等の貸出を行った。</p> <p>実績 延べ139台(26件) ()内は、貸出を行った件数</p>									

(5) 環境学習情報の提供

環境学習のためのホームページを運用し、環境学習に関する情報を発信した。

事業名又は項目	概要
ア かながわ環境学習ナビ	<p>環境学習講座開催情報、施設利用案内、教材ダウンロード、環境学習指導者情報等の情報を提供した。アクセス数 35,228件</p> <p>URL https://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/kankyogakushu/index.html</p>

3. 1. 3 神奈川県気候変動適応センター

気候変動適応法に基づく気候変動影響及び気候変動適応に関する情報の収集、整理、分析及び提供並びに技術的助言を行った。

(1) 情報収集・整理

気候変動に関連する公開情報等を収集整理するとともに、夏季の暑さ指数や気温の観測を行った。

事業名又は項目	概要
ア 収集・整理した既存情報	公開情報等から気温や降水量の変動及びその影響、影響への適応策に関する情報を集約・整理し、活用方法を検討した。
イ 市町村連携による暑さ指数を活用した熱中症対策の検討	市町村と連携した熱中症対策を推進するため、県民に注目されやすい身近な場所で暑さ指数をリアルタイムで測定・掲示することにより、熱中症の注意喚起を行うとともに、測定値を整理・共有し、効果的な熱中症対策の促進スキームの構築を検討した。 連携した市町村：3市町村（藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町）
ウ 夏期気温測定	ヒートアイランド現象の実態把握のため、横浜、川崎両市を除く県内の小学校の百葉箱での夏期気温測定を行い、横浜、川崎両市からは同種データの提供を受けて、県内における夏期の気温分布を取りまとめた。 当センターの調査：41か所

(2) 分析・影響予測

気候変動影響に関する潜在的ニーズ調査を行ったほか、県内の熱中症リスクに関する分析を行った。

事業名又は項目	概要
ア 熱中症リスクに関する分析	熱中症リスクの分析手法の検討のため、気象衛星による日射量の測定結果等の公開データを活用した暑さ指数の推計方法を検討した。

(3) 情報発信

気候変動学習教材を活用した取組及び気候変動対策講座を実施した他、暑さ指数の認知度向上を目的とした県民参加型調査や庁内所属との連携などを行った。

事業名又は項目	概要						
ア 教育プログラムの作成	気候変動問題に対する若年層の関心や理解を深めるため、主に小学校の授業での活用を想定した気候変動に関する学習用教材を作成し、「かながわ気候変動WEB KIDS」で公開した。						
イ 教職員向け気候変動対策講座	学校教育における気候変動に関する教育を促進するため、教職員を対象に研修を実施した。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>会場等（実施方法）</th> <th>実施日</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地球市民かながわプラザ</td> <td>令和6年8月7日（水）</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-left: 20px;">内容 講義「気候変動の基礎知識」 ワークショップ「どう教える？気候変動の影響と対策」</p>	会場等（実施方法）	実施日	参加人数	地球市民かながわプラザ	令和6年8月7日（水）	5人
会場等（実施方法）	実施日	参加人数					
地球市民かながわプラザ	令和6年8月7日（水）	5人					
ウ 県民参加型調査「かながわ暑さ調べ」	県内の熱中症リスクを把握するとともに、身近な気候変動影響である「暑熱」に係る暑さ指数について、県民が正確な知見を身に付け、気候変動への適応に「自分事」として取り組み、気候変動適応策の必要性を理解してもらうため、県民参加型による県内の暑さ指数一斉測定調査「かながわ暑さ調べ」を実施した。						
エ 庁内所属と連携した暑さ指数の認知度向上	県庁における熱中症対策を支援するため、熱中症対策に取り組む各所属に「暑さ指数計」を貸与し、活用いただく取組みを試行的に実施した。 貸与実績：5所属						
オ 普及啓発物品の作成及びイベント参加	気候変動影響及び気候変動適応に関する県民や事業者等の関心や理解を深めるため、普及啓発物品の作成及びイベントに参加した。 普及啓発物品：熱中症対策啓発うちわ、イベント参加：7回						

(4) 共同研究

事業名又は項目	概 要
ア 神奈川県内の 気候変動影響の 把握及び将来予 測 【国立環境研究 所・東京都市大 との共同研究】	<p><担当者> 新井聡史、米山翔太、原田昌武（環境情報部）、 馬場健司（東京都市大）ほか（気候変動影響全般の調査） 岡和孝（国立環境研究所気候変動適応センター気候変動影響観測研究室）ほ か（暑熱に係る気候変動影響調査）</p> <p><研究期間> 令和6年度～令和8年度</p> <p><目的> 気温の上昇や大雨の頻度の増加等、気候変動による被害の回避又は低減等を 図る「適応策」の実施に貢献するため、県内の気候変動影響全般の情報につい て調査するとともに、近年顕在化している暑熱による影響を対象として、気候 変動が本県に及ぼす影響を予測する。</p> <p><方法と結果></p> <p>① 暑熱分野に係る気候変動影響調査 地域の暑熱環境や熱中症リスクの現状を把握するため、熱中症搬送者数に関 する分析、WBGTの観測等に取り組み、国立環境研究所ほか地域気候変動適応セ ンターと情報共有を行った。</p> <p>② 気候変動影響全般の調査 地域の人々が気づいた気候変動影響や自然生態系の観察記録に関する情報 を集約してオンライン・オフラインで議論できる環境づくりのため、県内の環 境NGO・市民団体等と東京都市大を仲介し、各団体が保有する気候変動影響に 関係する可能性のある情報の収集をサポートした。</p>